

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大鏡～南院の競射～」問題

帥殿の南院にて人々^①集めて弓^②あそばしアしに、この殿^③渡ライせ^④給へウれば、^⑤思ひかけ
エ|ずあやしと、中関白殿^⑥おぼし驚きて、いみじう^⑦饗応し^⑧申さオせ^⑨給うて、下臍に^⑩おはし
ませど、前に^⑪立て^⑫奉りて、まづ^⑬射^カさせ^⑭奉らキせ^⑮給ひ^タけるに、帥殿の矢数今二つ^⑯劣り
^⑯給ひ^タける。中関白殿、また御前に^⑯候ふ人々も、「いま二度^⑯延べ^タさせ^⑯給く。」と^⑯申して、
と^⑯延べ^タさせ^⑯給ひ^タけるを、やすからスズ^⑯おぼしなりて、「やらば、^⑯延べ^タさせ^⑯給く。」
と^⑯仰せ^タせ^タられて、また^⑯射^タさせ^⑯給ふとて、^⑯仰せ^タせ^タるやう、「道長が家より、帝・后
立ち^タ給ふ^タべきもの^テならば、この矢^タ當たれ。」と^⑯仰せ^タせ^タるに、同じものを中心には
的の辺りにだに近く^⑯寄ら^タナ^タず、無辺世界を^⑯射^タ給^タへ^タるに、関白殿、色青く^⑯なりヌぬ。
また入道殿^⑯射^タ給ふとて、「摂政・関白^⑯す^タべきもの^ノならば、この矢^タ當たれ。」と
仰せ^タらるるに、初めの同じヒやうに、的の^⑯破るばかり、同じ所に^⑯射^タさせ^タ給ひ^タつ。
53 饗応し、もてはやし⁵⁴聞^ヒえ^タさせ^タ給ひ^タつる興も⁵⁶さめて、こと苦う⁵⁷なり^タぬ。
父大臣、帥殿に、「なにか⁵⁸射^タる。な⁵⁹射^タそ、な⁶⁰射^タそ。」と⁶¹制^シ⁶²給ひ^タて、⁶³ヒと^タめ
ムに^タけり。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大鏡」（南院の競射） 解答

マ下二用

サ四用

ラ四〇
尊敬 ハ四〇 完了

力下二
未

自風の隠院にて人々集みて云々あるにしきにこの風波らせ繩べれば見てかに

タ下二用ラ四本
ヤ上二未尊改ラ四本
タ下二用ラ四本
タ下二用ラ四本

ませど、前に^⑪立て^⑫奉りて、まづ^⑬射^カさせ^⑭奉ら^キせ^⑮給ひ^クけるに、帥殿の矢数今二つ^⑯劣り

八四用 完了
八四体 バ下二(末)
尊敬
八四命 サ四用

㉒ 延べさせ ㉓ 給ひシけるを、やすからず ㉔ おぼしなりて、「さらば、
㉕ 延べさせ ㉖ 給へ。」

サ下二(未) 尊敬
ヤ上一(未) 尊敬
ハ四終

と仰せられでまた身させりとて（仙せらるるやシ）一道長が家より帝・后

立ち合ひしきものテなづば、二の天テ当シれ。一レ仰ハせトうるるこ、同ジものを中心シま

ラ四体
ヤ上一用
ハ四本
サ変用
カ四本

当たるものかは。次に、
帥殿射給ふに、いみじう臆し給ひて、御手もわななくにや

打消 **ラ四未** 完了 **ヤ上用ハ四巳** 完了 **六四用**

卷之三

また入道殿45射46給ふとて、「摂政・関白47す48べきものノならば、この矢48當たれ。」と

サ下二(未) 尊敬 比況 ラ下二(終)
ヤ上一(未) 尊敬 ハ四用 完了

傳
一
引
之
於
者
之
而
自
研
之
不
口
月
見
之
經
一

3 飴忘し、もてはやし 54 聞こえ 55 させ 55 給ひ 54 マ つる興も 56 さめて、こと苦う 57 なり 58 ぬ。

ヤ上一休
ヤ上一用
ヤ上一用
サ変用ハ四用
マ下二用

父大臣 帥殿に なにか 射る なき 射そ なき 射そ と申し 給ひて ことせめ

ムニメナノ | 完了 | 過去